

新潟青陵大学短期大学部 中期計画

(2018年度～2022年度)

建学の精神

日進の学理を応用し、努めて現今の社会に適応すべき実学を教授する。

教育研究上の目的

【人間総合学科】

人生に目的（志）を持ち、それを実現するに十分な表現能力や豊かな感性とライフスタイルに対応して地域社会に貢献できる知識や技術（多様な資格と検定）を身につけた人材を養成する。

【幼児教育学科】

幼児教育学科の教育上の目的は、幼児教育分野における実践的教育を通して、万物に対する深い愛と広い視野、豊かな感性をもって保育を創造することができる専門家を養成することにある。

3つのポリシー

【人間総合学科】

人間総合学科人間総合コース及び介護福祉コースは、それぞれのコースの特色に基づき、次の3つのポリシーをもとに、その実現に努める。

■人間総合コース

◇ ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

- ①地域に根差した社会人として活躍するためのマナー及び一般教養、社会常識を身につけている。
- ②職業人として社会で求められる資質と倫理観を有する「就業力」を備えている。
- ③選択した履修コースの専門分野における知識、技能、素養を備えている。
- ④取得希望の資格に係る基礎的な知識と技能を身につけている。
- ⑤多様な分野での活躍が可能な向上心、知的応用力、協調性がある。
- ⑥生活者、消費者の視点から物事を論理的に考え、適切な判断ができる。

◇ カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

- ①初年次教育において、専門分野を学ぶための基礎的な学習方法を身につける。
- ②地域や企業理解を深め、社会人となるための教養やマナーを身につける。
- ③あらゆるビジネスのベースとなる知識と技能を修得し、基本的な仕事力を養成する。
- ④ビジネスシーンに必要なマナー、文書作成能力、コミュニケーション力を身につける。
- ⑤専門科目を履修コースごとに体系的に履修できるよう構成し、基礎的科目から専門的な科目、実践的な科目へと展開するとともに、能動的学修の充実を図る。
- ⑥ビジネス系の資格を広く取得できるよう、並びに各履修コースの特色ある資格取得を可能とする。
- ⑦社会生活を豊かなものとするための文化、芸術など幅広い教養を身につける。
- ⑧進学（4年制大学への3年次編入）希望者には、体系的かつ実践的な履修を展開する。

◇ アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

- ①明確な目的意識をもち、本コースにおける学修のための基礎学力を有する人
- ②ビジネス、会計実務、ファッション、インテリア、フード、観光、ブライダル、英語などのいずれかの分野に興味関心をもち、積極的に学ぼうとする人
- ③協調性を重んじ、人と人とのコミュニケーションを大切にすること
- ④地域社会に貢献できる知識・技能を身につけたいという意思をもつ人

■ 介護福祉コース

◇ ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

- ①総合的な学力と豊かな人間性を養い、介護福祉士としての知識と技能を兼ねそなえたスペシャリストとして働ける力を身につけている。
- ②福祉現場で必要とされる円滑なコミュニケーション能力と倫理的態度を身につけ、現場では多職種協働によるチームアプローチが必要であることが理解できる。
- ③卒業まで学習に励むことによって、問題解決能力を養い、どのような事態に遭遇しても的確な対応ができる能力を身につけている。
- ④社会人として、また介護福祉士として、自分自身が果たすべき役割や使命を考え実行できる能力を身につけている。

◇ カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

- ①初年次教育において、専門分野を学ぶための基礎的な学習方法を身につける。
- ②介護福祉士養成課程における、「人間と社会」、「介護」、「こころとからだのしくみ」、「医療的ケア」等の分野ごとの介護の専門的知識・技術を学ぶ。
- ③介護の各専門分野において、基礎的な内容から、より専門的な科目、実践的な科目へと展開するとともに、能動的学修の充実を図る。
- ④介護の基礎となる教養を身につけ、専門職としての倫理的態度を涵養する。
- ⑤その人のおかれている環境の中で理解できる能力を身につけ、相手の立場に立って関わることのできる心豊かな人間を育成する。
- ⑥福祉マインドと問題解決能力をもった介護職のリーダーを目指す人材を育成する。

◇ アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

- ①社会福祉や介護福祉の課題に関心をもち、専門的な知識や技術の習得に努力を惜しまない人
- ②高齢者や障がいをもつ人の気持ちを理解し、生命の尊さや人間の尊厳を大切にすること
- ③豊かな感性をもち、積極的に高齢者や障がいをもつ人との交流を大切にし、そこで責任ある行動がとれる人
- ④介護福祉分野において幅広い職業人としての研鑽を積み、福祉マインドと問題解決能力をもって地域社会への貢献を目指す人
- ⑤本コースにおける学修のための基礎的知識をもっている人

【幼児教育学科】

幼児教育学科においても、次の3つのポリシーをもとに、学科が目指すより質の高い保育者養成に努める。

■ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

- ①保育者としての知識と技能、問題解決能力を身につけている。
- ②保育現場で必要とされている多様な表現方法を習得している。
- ③社会から要請される保育について、主体的かつ創造的に実践することができる。
- ④保育現場に臨む際の人権尊重の精神と礼節を身につけている。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

- ①初年次教育において、専門分野を学ぶための基礎的な学習方法を身につける。
- ②教育学、社会福祉学、心理学、保育における5領域に関する講義、演習群を通して、保育者の基礎的な知識・技能を養う。
- ③保育に関わる理論とともに、実技・実習を重視し、保育者としての実践力を養う。
- ④保育の各専門分野において、基礎的な内容から、より専門的な科目、実践的な科目へと展開するとともに、能動的学修の充実を図る。
- ⑤実習指導の活動を核に、実習に関するサポートをきめ細かく行い、理論と実践の有機的な統合ができるよう配慮する。
- ⑥領域「表現」において、3分野（音楽・造形・身体）それぞれの表現指導法を設置し、充実を図る。
- ⑦共感する心とそれを表現する力を養い、保育者としての豊かな感性と創造性を育む。
- ⑧さまざまな保育の現場に対応するために、人権尊重の保育と基本的な礼節を重視し、演習や実習指導に取り組む。

■アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

- ①保育をめざす高い志と、本学での就学に必要な基礎学力及び基礎技能をもつ人
- ②積極的に学ぶ意欲と臨機応変に課題を処理する柔軟性をもつ人
- ③明朗活発で協調性があり、対人関係を円滑に築くことができる人

Vision と基本戦略

Vision

本学は、開学以来、女性の社会的地位向上・実学教育をその根本に据え、共学化を経てなお学生一人ひとりの人間・社会人としての自立を目指す高等教育機関として教育・研究を進めてきた。

一方、少子化、高齢化、多様化などへの対応、そして、地方の活性化などの我が国の課題に本学も少なからず影響を受けている。このような状況のなかで、これからの時代を見据え、社会人としての自立や活躍の基盤となる教養・専門的知識・技能を身につけた人材を育成する。

また、時代のニーズに応え、地域のリーダーとしての活躍が期待される市民、産業人の育成ともに、社会人の学習意欲を満たし、絶え間ないスキルアップを目指す生涯学習の場を提供する。

基本戦略の項目

1. 教育の改革と質保証
2. 学生支援
3. 地域連携
4. 学生確保
5. 国際化の推進
6. 研究活動の活性化
7. キャンパス整備
8. 経営・管理の強化

基本戦略

1. 教育の改革と質保証

- ①導入教育の充実による学びの姿勢の定着
- ②教育の質保証・単位の実質化に向けた取組
- ③地域社会にかかわる実践的な問題解決能力を養う教育改革の推進
- ④ICTを活用した教育の推進
- ⑤教学マネジメント体制の構築と教育改革
- ⑥教育支援体制の強化

2. 学生支援

- ①学生相談体制の充実
- ②障がいのある学生の受入態勢の整備
- ③課外活動の充実への対応
- ④学生生活全般へのサポート体制の充実
- ⑤保護者との連携強化
- ⑥同窓会、卒業生とのネットワーク構築
- ⑦キャリア支援体制の充実

3. 地域連携

- ①行政、企業、他大学等との連携強化
- ②高大連携・高大接続の推進

4. 学生確保

- ①戦略的展開への組織体制整備
- ②アドミッション・ポリシーの見直し
- ③入試・広報活動の推進

5. 国際化の推進

- ①海外語学研修、短期留学の拡大
- ②国際交流機会の提供

6. 研究活動の活性化

- ①学術研究の向上
- ②個人研究費以外の研究費申請・採択件数の増加
- ③研究活動・研究成果の発表、公表
- ④研究倫理審査の整備

7. キャンパス整備

- ①キャンパス整備計画の策定
- ②教育環境の整備

8. 経営・管理の強化

- ①ガバナンス体制の整備
- ②事業計画制度、予算制度の見直し
- ③学科、コースの見直し等の検討
- ④人事計画の策定
- ⑤IRによる分析と施策への反映
- ⑥他大学との連携強化

基本戦略と主な施策・検討課題

1. 教育の改革と質保証

<計画概要>

本学は、昭和40(1965)年の開学以来、教育の伝統を保持してきており、就業力の高い汎用的な職業人、教育と福祉の分野における専門職の養成に取り組んできている。

そのために、入学当初から大学教育への導入教育を充実させ、学生生活の基本にある学びの姿勢を定着し、それぞれの専門教育に備える必要がある。同時に社会人として必要な基本的な一般教養と礼節を身につける機会を設定する。専門教育のカリキュラムにおいては、学生自身の主体的・能動的な学習(アクティブラーニング)を引き出すように配慮する必要がある。これらの点については全学的なFD研修を充実させることや、学長をはじめとする全学的なカリキュラム編成の検討などを通して、高い教育の質を保証する。インターンシップや就業力については、地域社会や他大学とも連携しながらCOC+の活動を軸にしてすすめていく。

①導入教育の充実による学びの姿勢の定着

学生のスムーズな大学教育への導入と、学びの姿勢の定着を図る。

主な施策と検討課題

- ◆入学前教育・初年次教育の点検と見直し
- ◆ベーシック・一般教養科目の統合と再編成
- ◆「短大生調査」など学生基礎データのIR分析と教育活動への反映

②教育の質保証・単位の実質化に向けた取組

単位の実質化に向けて、授業評価結果を積極的に活用するとともに、教育改革体制の整備と強化を図る。

主な施策と検討課題

- ◆カリキュラム内容のマネジメントを第三者によるシラバスチェックなどで行う。
- ◆講義・演習・実習など従来の授業区分を超えて、反転授業・アクティブラーニングなどさまざまな学生の能動的な授業への質的転換を促進する。
- ◆アクティブラーニングなど教学改革に関するFD活動の充実
- ◆授業評価方法の検討(ルーブリック評価など多様な評価を含む)とその活用促進方法の研究
- ◆GPA制度やCAP制の実施とその適正・有効活用の検討

③地域社会にかかわる実践的な問題解決能力を養う教育改革の推進

地域社会で活躍する実践力を持った職業人を育てる本学の教育目的を踏まえ、学生自身が地域や社会の課題に積極的に関わり、地域のニーズにこたえそれを主体的に解決する教育をカリキュラムに位置づけ、具体的な学習を進展させる。

主な施策と検討課題

- ◆人間総合学科においては、地域ミッションインターンシップ、幼児教育学科においては保育実践演習などの問題解決能力を主眼にした教育活動の更なる推進
- ◆様々な地域貢献活動の、カリキュラムにおける位置づけの再検討、理論と実践の統合を図るための工夫

④ICTを活用した教育の推進

情報機器端末をすべての学生に配布し、学内LANをはじめとするITインフラの更なる効率的な活用を推進する。授業や授業以外の時間における切れ目のない情報検索が可能な環境を提供することによるICT活用教育の有効性を検証し、さらなる教育支援体制の整備を図る。

主な施策と検討課題

- ◆教育におけるICT活用に向けた有効性に関する検証の実施
- ◆学内のICT活用教育に向けた計画の策定
- ◆社会人として必要なICTリテラシーの調査とそれに基づいた支援体制の整備

⑤教学マネジメント体制の構築と教育改革

学長をはじめとした機動的かつ一体的な教学マネジメントシステムを構築する。

主な施策と検討課題

- ◆学科・各委員会・運営会議における教学マネジメントシステムの位置づけの整理
- ◆外部委員、各ステークホルダーからの意見聴取とカリキュラムへの反映
- ◆教育課程の編成に関する全学的方針の策定
- ◆各ポリシーの見直しとコース・資格・免許制度の定期的な点検

⑥教育支援体制の強化

学生の主体的学習を支援する体制を総合的に整備する。また、実習教育やインターンシップ、編入学への支援体制を強化する

主な施策と検討課題

- ◆アドバイザー制度によるメンタリング・教育相談体制の充実
- ◆オフィスアワーを利用した教職員によるラーニングコモンズの機能強化
- ◆キャリアセンター・福祉系実習指導室によるインターンシップ・実習教育支援強化
- ◆図書館の機能強化による学習支援機能の充実
- ◆サポートフォリオ・学生カルテの活用による教育支援体制の強化
- ◆編入学を希望する学生への支援体制の強化

2. 学生支援

<計画概要>

学生支援体制に関する基本的な仕組みはできているので、その内容をブラッシュアップさせていく。授業以外の場面での学生生活の満足度向上が図れるよう大学・短大が連携していく。保護者、卒業生に関しても十分な情報が伝わるような仕組みづくりを行う。

キャリア支援体制については、キャリア支援課、キャリア委員会、キャリアサポートステーション、の三連携体制で臨んでいるが、今後も学生の就職活動支援を始めとするキャリア支援体制の構築維持を図ると共に、大学・短大とも連携した体制の増強を図っていく。

毎年変化する社会情勢や就職環境の実態に即したキャリア教育を施し、各種就職支援事業を充実させる。また、教職員のキャリア支援体制への意識の高揚を図り、同時に学生の就業意識を醸成していく。

①学生相談体制の充実

学生にとって敷居の低い相談体制の充実を進める。

主な施策と検討課題

- ◆各アドバイザー、キャンパスライフサポート室、学務課等の相談窓口をさらに活用していく。

②障がいのある学生の受入態勢の整備

障がいのある学生支援に関する体制の実質的な体制構築を進める。

主な施策と検討課題

- ◆入学前、卒業後に学生が関わる学外社会との連携を行うための支援体制作り

③課外活動の充実への対応

学生が活動しやすいハード・ソフト面での支援を進める。

主な施策と検討課題

- ◆クラブ・ボランティア活動のための施設備品などの充実
- ◆学園祭の内容を充実させるための指導支援

④学生生活全般へのサポート体制の充実

学生満足度があがるようなサービスの充実を進める。

主な施策と検討課題

- ◆学生支援体制のしくみを点検し、一層内容を充実させていく。
- ◆学生満足度調査の内容の改善及びその対策方法を検討する。

⑤保護者との連携強化

保護者との組織的連携体制の在り方を検討する。

主な施策と検討課題

- ◆保護者会組織の設立と運営方法の検討
- ◆保護者懇談会の開催の検討

⑥同窓会、卒業生とのネットワーク構築

同窓会・卒業生への情報発信体制の構築や卒業生への支援を図る。

主な施策と検討課題

- ◆同窓会（薔薇会）との連携を一層強固にしていく
- ◆卒業生への双方向情報発信手段の検討
- ◆卒業後の上位資格取得をはじめ、スキルアップを支援する。

⑦キャリア支援体制の充実

教職員が一体となり、学生の就職からキャリア教育までの支援全般を、変化の激しい時代に即した柔軟な体制で着実に実行する。

主な施策と検討課題

- ◆学生によるキャリアサポートステーション利用の促進
- ◆キャリア支援課、キャリアサポートステーションの支援体制の把握と改善、学生からの要望等を調査し反映する体制の維持を図る。
- ◆未就職卒業生のゼロ化及び未就職卒業生の就職活動支援体制の拡充
- ◆キャリア委員会の円滑な運営と情報共有促進
- ◆就職懇談会実施時における更なるキャリア支援体制の広報と、保護者への伝達
- ◆就職支援事業の充実として、本学主催の企業説明会の出展企業の拡充や学内個別説明会実施企業の拡大を図る。
- ◆資格支援や、公務員試験等の対策の充実と効果検証を行う。
- ◆インターンシップ受入企業の拡大や、インターンシップの内容確認と充実並びに検証と事後指導を図る。
- ◆就職先企業等への調査や就職活動の現状把握を行う。
- ◆キャリア教育の内容検証と、最新情報等の取得を図る。
- ◆キャリア支援体制に係る教職員の意識向上の為の勉強会等への参加・実施
- ◆教員による個別面談・スタッフによる個別面談の更なる充実
- ◆県外への就職や、障がい者等の就職支援体制の整備を図る。
- ◆卒業生へのアンケートによる実態調査や、それに基づく支援の検討並びに実施
- ◆地元のロータリークラブなどと連携したセミナー等による学生の就職意欲の増進

3. 地域連携

<計画概要>

本学の知的財産等を地域社会に提供し、地域に貢献するとともに、地域の人材育成のニーズに応える教育を行うことを建学の精神としている。その実現のため、地域貢献センター、キャリアセンター等と連携して事業を推進する。

①行政、企業、他大学等との連携強化

自治体、関連団体、企業、大学等との連携を更に加速させ、人材育成をはじめとした地域貢献活動を推進する。

主な施策と検討課題

- ◆新潟市とは、COC+事業等で連携を進めているが、さらに連携を進める。
- ◆阿賀町とは、定期的に連携する事業があるが、さらに強化を図る。
- ◆新潟市社会福祉協議会との連携事業を見直し、推進を図る。
- ◆新潟都市圏大学連合の大学やCOC+事業で連携している大学との連携を推進する。
- ◆ステークホルダーとの連携を強化し、教育課程の編成や教育内容に反映させる。
- ◆4大学メディアキャンパスを中心とした他大学との連携を推進する。
- ◆中小企業家同友会や中小企業団体中央会、ロータリークラブ等団体所属企業との連携を進める。

②高大連携・高大接続の推進

本学高校のみならず指定校推薦高校をはじめとした他高校との連携を推進する。

主な施策と検討課題

- ◆青陵高等学校との高大連携を見直し、推進する。
- ◆青陵高等学校以外の高校とも連携を進める。
- ◆指定校推薦高等学校との連携をさらに進める。

4. 学生確保

<計画概要>

18歳人口減少に対応すべく PDCD サイクルによる広報活動を進め、安定した受験者確保を図る。県外を含めた顧客層への本学の教育内容・教育実践の周知を徹底する。

①戦略的展開への組織体制整備

学生確保に向けた組織体制を整備し、PDCA による課題検討・解決を図る。

主な施策と検討課題

◆18歳人口減少に対応する入試システムと関連広報活動の強化を図る。

②アドミッション・ポリシーの見直し

文部科学省中央教育審議会答申「高大接続改革実行プラン」を踏まえた、アドミッション・ポリシーの策定等を行う。

主な施策と検討課題

◆ディプロマ・ポリシーに対応したアドミッション・ポリシーの検証・策定を適宜図る。

③入試・広報活動の推進

高校訪問、学内外説明会等を効果的に活用して、生徒、保護者、担当教員に対して、本学の教育実践の理解を深める機会を質・量ともに増加させ、資料請求者・受験者数の増加を目指す。

さらに文部科学省の打ち出す大学入試改革を踏まえた対応策をとる。

主な施策と検討課題

◆18歳人口減少に対応し、県外高等学校及び社会人も含めたマーケティング体制を強化する。

◆生徒・保護者・高等学校教員に対して、本学の教育内容・教育実践についての周知を更に徹底する。

◆高等学校との連携強化による高い学習意識のある学生の確保を図る。

◆大学入試改革に対応した入試方式・内容を随時検討する。

5. 国際化の推進

<計画概要>

人間総合学科開設以前より実施している海外語学研修・短期留学の参加者数の増加を図ることに加えて、そうした在外経験を一般学生と共有する機会を設ける。さらに、海外からの本学への来訪者等との交流の機会を増加させ、異文化理解の場を設ける。

①海外語学研修、短期留学の拡大

海外語学研修・短期留学の参加者数増加を図り、より多くの学生の語学力を上昇させるとともに異文化交流の機会を拡大する

主な施策と検討課題

- ◆海外語学研修及び短期留学参加学生数を増加させる。
- ◆海外語学研修及び短期留学参加学生については、好調な卒業後進路実績を継続する。

②国際交流機会の提供

語学研修・留学等から帰国した学生のほか、海外からの訪問者を通じて異文化交流の機会を充実させる。

主な施策と検討課題

- ◆留学・研修等を経験した学生が、その体験を学内学生に報告する機会を設ける。
- ◆一般学生を含めた本学学生が海外からの様々な来訪者と交流を図る機会を増加させる。

6. 研究活動の活性化

<計画概要>

時代のニーズに応え、地域のリーダーとしての活躍が期待される人材育成を教育理念としていることから、教員は、各専門領域における最新の情報を収集し、質の高い研究や人材育成の方法など幅広い研究を行う中で、教育の質の向上を図る。

①学術研究の向上

研究成果を教育に活かし、教育の質の向上が図れるよう教員の研究活動を充実させる。

主な施策と検討課題

◆研究業績管理システムの整備

毎年発行の研究紀要「研究報告」の巻末に記載してあるが、一覧として入力管理できるシステムを作るなどの検討

◆研究支援体制の整備

個人研究、共同研究の推進に向けた助言・支援などの体制整備と研修会、学術談話会の開催

②個人研究費以外の研究費申請・採択件数の増加

教育研究活動を推進し、外部研究資金への申請を促進する。

主な施策と検討課題

◆科学研究費補助金、学内共同研究費などの申請数を増加させる。

◆特色ある研究や教育改善に係る研究に個人研究費を増額する制度の新設について協議する。

③研究活動・研究成果の発表、公表

本学の研究活動や研究成果を広く学内外に周知するため「研究報告」の充実等、発表・公表の機会の促進を図る。

主な施策と検討課題

◆研究紀要「研究報告」発刊の継続

◆「研究報告」への投稿の推進

◆ホームページ「教員紹介」欄への記載の周知

④研究倫理審査の整備

研究倫理体制の整備を行い、研究不正の防止を徹底させる。また、必要に応じて諸規程等の見直しを図る。

主な施策と検討課題

◆2016年度に研究倫理審査規程等を策定したが、その運用を進めながら、研究不正の防止を行うとともに、規程等の見直しを行う。

◆教職員に対する研究倫理研修会を実施する。

7. キャンパス整備

<計画概要>

新1号館の竣工により、図書館、ラーニングコモンズ、アクティブ講義室等の教育環境が整備されたが、クラブ活動の支援も視野に、キャンパス全体の整備を進める。

①キャンパス整備計画の策定

新1号館の竣工後、3号館、4号館の改修を行い、教育環境の整備を進めているが、大学・学園全体の整備計画と連携しながら、キャンパス全体の整備計画を進める。

主な施策と検討課題

- ◆第1次キャンパス再整備計画の完了に伴う、整備基本方針を確認
- ◆キャンパス整備後の検証を行い、運用の改善を図るとともに、基本方針のもとに今後の整備内容を検討し、優先順位をつけ、整備を進める。

②教育環境の整備

短期大学部学生の教育環境の検証を行い、さらに充実した教育環境を整備する。

主な施策と検討課題

- ◆ラーニングコモンズの活用を推進する。
- ◆各講義室、実習室、実験室の整備
- ◆実習室等の運用マニュアルの整備

8. 経営・管理の強化

<計画概要>

建学の精神、教育理念のもと教育・研究・社会貢献を進めていくための経営基盤の強化を図る。そのためガバナンス等の体制整備、予算制度等の見直しなど検討する。

①ガバナンス体制の整備

学長のリーダーシップの下、意思決定及び執行の迅速化を図る。

主な施策と検討課題

- ◆理事会、評議員会における大学経営方針の策定
- ◆運営会議における教育方針等の策定
- ◆事業のPDCA 検証サイクルの確立。
- ◆内部統制機能の整備

②事業計画制度、予算制度の見直し

学科、コースの見直し等の検討

事業計画に基づく予算制度・執行の仕組みを検討し、財務体質の強化を図る。

主な施策と検討課題

- ◆事業計画と予算との整合性の検討
- ◆予算制度・予算執行制度の見直し
- ◆人件費の合理的な見直し

③学科、コースの見直し等の検討

建学の精神、目指すべきビジョン及び社会の変化に伴うニーズの変化を踏まえ、学科、コース等を見直しを検討する。

主な施策と検討課題

- ◆学科、コースの入試方法別合格者の推移の検討
- ◆学生調査等の分析
- ◆就職率、就職先の分析

④人事計画の策定

教職員の人事計画を策定し、専門分野や年齢構成のバランスについて見直しを図る。また、大学運営に必要な基本的知識や文部科学省の動向を理解するためSD 研修制度を充実する。

主な施策と検討課題

- ◆教職員の労務管理体制の整備
- ◆中期的な人事計画の策定
- ◆SD 研修制度の充実

⑤IRによる分析と施策への反映

IR機能の一層の充実を図り、現在の教学・学生支援から経営分析まで範囲を拡大し、IRを活かした教育改善、経営改善を図る。

主な施策と検討課題

- ◆IR推進センターの設置に向けた検討
- ◆IRの活用の推進
- ◆IRを活用した各種施策の改善

⑥他大学との連携強化

他大学との連携を強化し、教育の質向上及び人事・財務等経営面での効率化を推進する。

主な施策と検討課題

- ◆教学面での連携推進（単位互換・共通授業開発等）
- ◆人事・財務面での連携の推進（合同FD・SD研修、人事交流、共同調達等）

実行計画

1. 教育の改革と質保証

①導入教育の充実による学びの姿勢の定着

主担当	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
◆入学前教育・初年次教育の点検と見直し	各学科	→			
◆ベーシック・一般教養科目の統合と再編成	各学科	→			
◆「短大生調査」など学生基礎データの IR 分析と教育活動への反映	FD&IR	→			

FD : FD 委員会 IR:IR 推進室

②教育の質保証・単位の実質化に向けた取組

主担当	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
◆第三者によるシラバスチェック	教務	→			
◆さまざまな学生の能動的な授業への質的転換の促進	FD	→			
◆教学改革に関する FD 活動の充実	FD	→			
◆授業評価方法の検討とその活用の促進方法の研究	FD	→			
◆GPA 制度や CAP 制の実施とその適正・有効活用の検討	教務	→			

教務：教務委員会 FD：FD 委員会

③地域社会にかかわる実践的な問題解決能力を養う教育改革の推進

主担当	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
◆問題解決能力を主眼にした教育活動の更なる推進	各学科	→			
◆様々な地域貢献活動のカリキュラムにおける位置づけの再検討、理論と実践の統合を図るための工夫	各学科	→			

④ICT を活用した教育の推進

- ◆教育における ICT 活用に向けた有効性に関する検証の実施
- ◆学内の ICT 活用教育に向けた計画の策定
- ◆社会人として必要な ICT リテラシーの調査とそれに基づいた支援体制の整備

主担当	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
教務	→				
教務		→			
キャリア	→				

教務：教務委員会 キャリア：キャリア委員会

⑤教学マネジメント体制の構築と教育改革

- ◆学科・各委員会・運営会議における教学マネジメントシステムの位置づけの整理
- ◆外部委員、各ステークホルダーからの意見聴取とカリキュラムへの反映
- ◆教育課程の編成に関する全学的方針の策定
- ◆各ポリシーの見直しとコース・資格・免許制度の定期的な点検

主担当	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
教務	→				
教務	→				
教務	→				
各学科	→				

教務：教務委員会

⑥教育支援体制の強化

- ◆アドバイザー制度によるメンタリング・教育相談体制の充実
- ◆オフィスアワーを利用した教職員によるラーニング commons の機能強化
- ◆キャリアセンター・福祉系実習指導室によるインターンシップ・実習教育支援強化
- ◆図書館の機能強化による学習支援機能の充実
- ◆サポートフォリオ・学生カルテの活用による教育支援体制の強化
- ◆編入学を希望する学生への支援体制の強化

主担当	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
各学科	→				
教務		→			
教務・キャリア	→				
図書	→				
教務	→				
教務	→				

教務：教務委員会 キャリア：キャリア委員会 図書：図書委員会

2. 学生支援

①学生相談体制の充実

- ◆アドバイザー、キャンパスライフサポート室、学務課等の相談窓口をさらに活用していく。

主担当	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
学生	→				

学生：学生委員会

②障がいのある学生の受入態勢の整備

- ◆入学前、卒業後に学生が関わる学外社会との連携を行うための支援体制作り

主担当	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
学生	→				

学生：学生委員会

③課外活動の充実への対応

- ◆クラブ・ボランティア活動のための施設備品などの充実
- ◆学園祭の内容を充実させるための指導支援

主担当	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
学生	→				
学生	→				

学生：学生委員会

④学生生活全般へのサポート体制の充実

- ◆学生支援体制のしくみを点検し、一層内容を充実させていく。
- ◆学生満足度調査の内容の改善及びその対策方法を検討する。

主担当	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
学生	→				
学生	→				

学生：学生委員会

⑤保護者との連携強化

- ◆保護者会組織の設立と運営方法の検討
- ◆保護者懇談会の開催の検討

主担当	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
学生	→				
学生			→		

学生：学生委員会

⑥同窓会、卒業生とのネットワーク構築

- ◆同窓会（蓄薇会）との連携を一層強固にしていく。
- ◆卒業生への双方向情報発信手段の検討
- ◆卒業後の上位資格取得をはじめ、スキルアップを支援する。

主担当	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
学生	→				
学生	→				
教務・キャリア	→				

学生：学生委員会 教務：教務委員会 キャリア：キャリア委員会

⑦キャリア支援体制の充実

- ◆学生によるキャリアサポートステーション利用の促進
- ◆キャリア支援課、キャリアサポートステーションの支援体制の把握と改善、学生からの要望等を調査し反映する体制の維持を図る。
- ◆未就職卒業生のゼロ化及び未就職卒業生の就職活動支援体制の拡充
- ◆キャリア委員会の円滑な運営と情報共有促進
- ◆就職懇談会実施時における更なるキャリア支援体制の広報と、保護者への伝達
- ◆就職支援事業の充実として、本学主催の企業説明会の出展企業の拡充や学内個別説明会実施企業の拡大を図る。
- ◆資格支援や、公務員試験等の対策の充実と効果検証を行う。
- ◆インターンシップ受入企業の拡大や、インターンシップの内容確認と充実並びに検証と事後指導を図る。
- ◆就職先企業等への調査や就職活動の現状把握を行う。
- ◆キャリア教育の内容検証と、最新情報等の取得を図る。
- ◆キャリア支援体制に係る教職員の意識向上の為に勉強会等への参加・実施
- ◆教員による個別面談・スタッフによる個別面談の更なる充実
- ◆県外への就職や、障がい者等の就職支援体制の整備を図る。
- ◆卒業生へのアンケートによる実態調査や、それに基づく支援の検討並びに実施
- ◆地元のロータリークラブなどと連携したセミナー等による学生の就職意欲の増進

主担当	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
キャリア	→				
キャリア	→				
キャリア	→				
キャリア	→				
キャリア	→				
キャリア	→				
キャリア	→				
キャリア	→				
キャリア	→				
キャリア	→				
キャリア	→				
キャリア	→				
キャリア	→				
人間総合	→				

キャリア：キャリア委員会 人間総合：人間総合学科

3. 地域連携

①行政、企業、他大学等との連携強化

- ◆新潟市とは、COC+事業等で連携を進めているが、さらに連携を進める。
- ◆阿賀町とは、定期的に連携する事業があるが、さらに強化を図る。
- ◆新潟市社会福祉協議会との連携事業を見直し、推進を図る。
- ◆新潟都市圏大学連合の大学やCOC+事業で連携している大学との連携を推進する。
- ◆ステークホルダーとの連携を強化し、教育課程の編成や教育内容に反映させる。
- ◆4大学メディアキャンパスを中心とした他大学との連携を推進する。
- ◆中小企業家同友会や中小企業団体中央会、ロータリークラブ等、団体所属企業との連携を進める。

主担当	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
地域貢献	→				
地域貢献・各学科	→				
地域貢献	→				
地域貢献	→				
各学科	→				
地域貢献	→				
キャリア・人間総合	→				

地域貢献：地域貢献センター キャリア：キャリア委員会
人間総合：人間総合学科

②高大連携・高大接続の推進

- ◆青陵高等学校との高大連携を見直し、推進する。
- ◆青陵高等学校以外の高校とも連携を進める。
- ◆指定校推薦高等学校との連携をさらに進める。

主担当	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
各学科		→			
各学科	→				
各学科	→				

4. 学生確保

①戦略的展開への組織体制整備

- ◆18歳人口減少に対応する入試システムと関連広報活動の強化を図る。

主担当	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
地域貢献	→				

入試：入試委員会

②アドミッション・ポリシーの見直し

- ◆ディプロマ・ポリシーに対応したアドミッション・ポリシーの検証・策定を適宜図る。

主担当	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
入試・各学科	→				

入試：入試委員会

③入試・広報活動の推進

- ◆18歳人口減少に対応し、県外高等学校及び社会人も含めたマーケティング体制を強化する。
- ◆生徒・保護者・高等学校教員に対して、本学の教育内容・教育実践についての周知を更に徹底する。
- ◆高等学校との連携強化による高い学習意識のある学生の確保を図る。
- ◆大学入試改革に対応した入試方式・内容を随時検討する。

主担当	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
入試	→				
入試	→				
入試	→				
入試	→				

入試：入試委員会

5. 国際化の推進

①海外語学研修、短期留学の拡大

- ◆海外語学研修及び短期留学参加学生数を増加させる。
- ◆海外語学研修及び短期留学参加学生については、好調な卒業後進路実績を継続する。

主担当	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
人間総合	→				
人間総合	→				

人間総合：人間総合学科

②国際交流機会の提供

- ◆留学・研修等を経験した学生が、その体験を学内学生に報告する機会を設ける。
- ◆一般学生を含めた本学学生が海外からの様々な来訪者と交流を図る機会を増加させる。

主担当	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
人間総合	→				
人間総合	→				

人間総合：人間総合学科

6. 研究活動の活性化

①学術研究の向上

- ◆研究業績管理システムの整備
毎年発行の研究紀要「研究報告」の巻末に記載してあるが、一覧として入力管理できるシステムを作るなどの検討
- ◆研究支援体制の整備
個人研究、共同研究の推進に向けた助言・支援などの体制整備と研修会、学術談話会の開催

主担当	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
学術研究					
学術研究					

学術研究：学術研究委員会

②個人研究費以外の研究費申請・採択件数の増加

- ◆科学研究費補助金、学内共同研究費などの申請数を増加させる。
- ◆特色ある研究や教育改善に係る研究に個人研究費を増額する制度の新設について協議する。

主担当	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
学術研究					
学術研究					

学術研究：学術研究委員会

③研究活動・研究成果の発表、公表

- ◆研究紀要「研究報告」発刊の継続
- ◆「研究報告」への投稿の推進
- ◆ホームページ「教員紹介」欄への記載の周知

主担当	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
学術研究					
学術研究					
事務局					

学術研究：学術研究委員会 事務局：学園事務局

④研究倫理審査の整備

- ◆2016年度に研究倫理審査規程等を策定したが、その運用を進めながら、研究不正の防止を行うとともに、規程等の見直しを行う。
- ◆教職員に対する研究倫理研修会を実施する。

主担当	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
学術研究					
FD・SD					

学術研究：学術研究委員会 FD：FD委員会 SD：SD委員会

7. キャンパス整備

① キャンパス整備計画の策定

- ◆ 第1次キャンパス再整備計画の完了に伴う、整備基本方針を確認
- ◆ キャンパス整備後の検証を行い、運用の改善を図るとともに、基本方針のもとに今後の整備内容を検討し、優先順位をつけ、整備を進める。

主担当	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
学研究	→				
学研究	→				

理事会：学園理事会

② 教育環境の整備

- ◆ ラーニングコモンズの活用を推進する。
- ◆ 各講義室、実習室、実験室の整備
- ◆ 実習室等の運用マニュアルの整備

主担当	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
学研究	→				
学研究	→				
事務局	→				

図書：図書委員会 事務局：学園事務局

8. 経営・管理の強化

①ガバナンス体制の整備

	主担当	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
◆理事会、評議員会における大学経営方針の策定	理事会	→				
◆運営会議における教育方針等の策定	運営会議	→				
◆事業のPDCA検証サイクルの確立	運営会議	→				
◆内部統制機能の整備	事務局	→				

理事会：学園理事会 運営会議：短期大学部運営会議
事務局：学園事務局

②事業計画制度、予算制度の見直し

	主担当	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
◆事業計画と予算との整合性の検討	事務局	→				
◆予算制度・予算執行制度の見直し	事務局	→				
◆人件費の合理的な見直し	事務局	→				

事務局：学園事務局

③学科、コースの見直し等の検討

	主担当	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
◆学科、コースの入試方法別合格者の推移の検討	各学科	→				
◆学生調査等の分析	各学科	→				
◆就職率、就職先の分析	各学科	→				

④人事計画の策定

◆教職員の労務管理体制の整備

◆中期的な人事計画の策定

◆SD 研修制度の充実

主担当	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
事務局	→				
事務局	→				
事務局	→				

事務局：学園事務局

⑤IR による分析と施策への反映

◆IR 推進センターの設置に向けた検討

◆IR の活用の推進

◆IR を活用した各種施策の改善

主担当	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
事務局	→				
事務局	→				
事務局		→			

事務局：学園事務局

⑥他大学との連携強化

◆教学面での連携推進（単位互換・共通授業開発等）

◆人事・財務面での連携の推進（合同FD・SD研修、人事交流、共同調達等）

主担当	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
事務局	→				
事務局	→				

事務局：学園事務局

目 次

建学の精神	1
教育研究上の目的	1
3つのポリシー	1
V i s i o nと基本戦略	4
基本戦略と主な施策・検討課題	
1. 教育改革と質保証	6
2. 学生支援	8
3. 地域連携	10
4. 学生確保	11
5. 国際化の推進	12
6. 研究活動の活性化	13
7. キャンパス整備	14
8. 経営・管理の強化	15
実行計画	
1. 教育改革と質保証	17
2. 学生支援	19
3. 地域連携	21
4. 学生確保	22
5. 国際化の推進	23
6. 研究活動の活性化	24
7. キャンパス整備	25
8. 経営・管理の強化	26